



第2回教育部会（令和2年11月28日開催）

資料3

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応	担当
1	岡村委員	【こども食堂支援事業】 ・目標値は、「区内11小学校区に1ヶ所ずつ」となっているが、これは運営費を補助をしたこども食堂が1ヶ所ずつなのか、補助は関係なく1ヶ所ずつなのか。	[平野子育て支援担当課長] ・補助の有無は関係なしにカウントしている。	・こども食堂支援事業については、子どもたちが歩いていける場所ということで、「区内11小学校区に1ヶ所ずつ開設・運営」と目標を掲げている。補助対象とならない団体や、現在補助を受けていない団体を含めると、区内11小学校区すべてに開設または開設予定となっている。	子育て支援
2	西田委員	【大阪市こどもの見守り強化事業】 ・この補助事業の応募状況について教えて欲しい。	[平野子育て支援担当課長] ・今のところ2件ほど問い合わせをいただいている。	・大阪市こどもの見守り強化事業は、地域で自主的に子どもに対し、食事の提供・学習支援又は生活指導支援等の支援活動を行っている民間団体に対して、当該民間団体が支援活動を通じて実施する子ども等の状況把握や見守りに係る活動費等を補助することにより、子どもの見守り体制の強化を図ることを目的とした大阪市こども青少年局が実施する事業である。区としてはこの事業について、区内の関係団体に対し広報を行っている。なお、今回、募集締め切りまでに3件の申請があった。	子育て支援
3	西前議長	【大阪市こどもの見守り強化事業】 ・すでに開設している業者がやるということか。新たに人材を求めるとのことか。	[平野子育て支援担当課長] ・こども食堂など拠点を持っておられるところではすでに見守りをしていただいている。新たに人材を求めるとは想定していない。		
4	西前議長	【障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業】 ・子どもの支援だけでなく、保護者の支援はないのか。	[平野子育て支援担当課長] ・親や子どもが障がい手帳を持っておられるが、どこにも繋がっていない孤立している家庭について支援する事業なので、当然保護者の支援も行う。	・障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業については、障がいのある子どもや親のうち課題を抱えている世帯は繋がりが少ないことが多いため、孤立を防止して虐待ゼロを目指すものとして立ち上げたものである。現在、障がいのある方たちのリストアップしており、家庭訪問につなげていくための整理を行っている。	子育て支援
5	藤本委員	【コロナ関係について】 ・他区では学校給食の職員や保育所の先生、こども食堂のスタッフなどがコロナに罹り、保護者が困っているという話を聞いた。西成区はどうなのか。 ・プレーパークでは「大阪コロナ追跡システム」を導入していないのか。	[横関区長] ・幸いなことに西成区ではそういった報告は受けていない。 ・「大阪コロナ追跡システム」に関しては検討してまいりたい。	・プレーパークでは受付で、氏名・連絡先等を記入いただき、入場者の把握を行っていたが、今回いただいたご意見を踏まえ、実施業者と調整した結果、感染症拡大防止のため「大阪コロナ追跡システム」についても導入する。	子育て支援

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応	担当
6	西田委員	【コロナ関連での人権侵害について】 ・コロナで自宅待機や濃厚接触者などが学校を休んだあと、人権侵害事象のような相談は区役所に入っているか。	[荻谷市民協働課長] ・今のところ、そういった報告はあがっていない。	・コロナに関連した人権侵害の相談は、今のところ区役所に寄せられていないが、人権週間にあたり開催した人権啓発パネル展では、コロナウイルスが引き起こす差別について啓発を行った。今後とも感染者・濃厚接触者、医療従事者等への不当な差別や偏見、いじめ等が発生することのないよう、啓発に努める。	市民協働
7	高岩副議長	【西成区のイメージについて】 ・他区の学校に通う西成区民が実習で来られた際、「一日も早く西成区の街を出ていきたい」と言われたことにショックを受けた。西成区はいろんな機関の方が連携を取り、配慮があって優しさのある街だと思っているが、他区や他市に住む方から心ない言葉をかけられることがあると聞く。西成区のイメージでそういった評価をされることがある。運営方針に掲げているように、「だれもが笑顔にあふれ」子どもたちが心から誇れる街づくりをする必要がある。	[横関区長] ・西成区では、これまで西成区の魅力を正しく理解していただけるような取り組みを行ってきた。今後も、西成区を正しく理解していただき、イメージアップにつながるような取り組みを行ってまいりたい。	・区民アンケートの結果では、西成区のイメージに対する肯定的な回答が、平成27年度の31.0%から、令和元年度は44.8%と、年々上がってきており、西成区魅力発信事業をはじめ、区の取り組みの成果が少しずつ出てきている。西成区には、まだまだ知られていない魅力が多くある。また、西成特区構想でも「プレーパーク事業」や「西成区子ども生活・まなびサポート事業」など、こどもの育ちや学びを支援する取り組みも多く実施している。今後も引き続き、広報紙やホームページ、SNSなどを活用しながら、効果的な情報発信に努め、運営方針に掲げる「未来を担う子どもたちが健やかに育ち、だれもが笑顔にあふれ、安心安全に暮らすことができるまちの実現」をめざしていく。	総務課 (総合企画)
8	西前議長	【西成区のイメージについて】 ・報道では生活保護のことに関してはすぐに西成区が出てくる。西成区にある各施設等はこの区や市よりも一生懸命やっており、充実している。そういった西成区のいい部分に関してはほとんど報道されない。区の広報紙でも、西成区のいいイメージを外に向かって広報していく必要がある。	—		
9	西田委員	【西成学習について】 ・西成区民への差別については、差別する方が当然ダメだが、西成区の子どもたちも無関心でいることのないよう、小学生・中学生の間にしっかりと自分の街を勉強し、誇りに思ってもらう必要がある。	—	・いただいたご意見については区内各小中学校にもお伝えし、西成学習について実施していただけるようお願いしていく。	子育て支援
10	岡村委員	【人権侵害について】 ・西成区のPTA会長として他区の方と話をする際、西成区にはプレーパークなどがあり、子育てするには本当にいい環境だと伝えている。しかし以前テレビで芸人が西成区に対して酷い発言をした時に、インターネットでその記事を見たところ、他の人も西成区の悪口を書いていてショックを受けた。そういったことへの対策をとって欲しい。	【荻谷市民協働課長】 ・今年も1件、そういった事例がインターネットにあがっているのを担当が発見し、法務局に対し削除要請を出している。しかしインターネットを悪用した差別行為は多数発生しており、すべての情報をモニタリングするのは不可能で、国レベルで大きな規制を作っていく必要があると思うが、出来るところはきめ細かく対応してまいりたい。	・インターネット上での西成への差別や偏見を助長するような事例については、引き続き法務局に削除要請を依頼するとともに、西成への差別解消に向けた啓発活動にも取り組んでいく。	市民協働